

No.8 「ぬ ②」

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

皆さん「夏は来ぬ」の意味わかりましたか？

なんと1人だけ校長室の前のボードに、自分の考えを書きに来てくれたお友達がいました。心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて「ぬ」の使い方が、どうも昔の日本語と今の日本語では違うんじゃないかと言う話でしたね。「腹が減っては戦ができぬ」の「ぬ」は〇〇できないという意味ですが、「夏は来ぬ」の「ぬ」も同じ意味だとしたら「夏が来ない」となってしまう、歌詞の中身と合わなくなります。

実は、「夏は来ぬ」の本当の味は、「夏が来た」という意味なんです。昔の日本語は今と少し違う言葉が使われていて、「夏が来た」を「夏は来ぬ」と言っていました。

では、本当に夏が来ないときは何と言っていたのでしょうか？それは夏は来ぬと言っていました。漢字で書くとどちらも同じなので、なかなか使い方が難しいですね。

ちなみに、昔の日本語のことを古文といひまして、今もたくさん残っています。たとえば、皆さんも好きな鬼滅の刃などは、古文の宝庫です。

煉獄さんのお母さんのセリフで

「弱き人を助けることは強く生まれた者の責務です」というものがあります。これは今の言葉では、何と言いますか。現代に生きるみなさんならわかりますよね。少しまわりの人と聞き合ってみてください。

「弱き」のところですが、現代では「弱い」ですよ。古文では「弱き」と言っていたのです。また我妻善逸が、炭次郎に後ろから急に話しかけられて、「心臓が口からまろび出るところだった」のセリフの「まろびでる」も現代ではいいません

よね。アニメを見ていると、さらっと言ってますが、意味は少しわかりにくかったの？まろび出るとというのは、転がり出るという意味なんです。昔は「転ぶ」を「まろぶ」と言っていたのですね。

他にも「ありがとうございます」は「ありがたき幸せ」とか「かたじけない」といっていたり、「愛してる」は「お慕い申し上げております」など、昔の日本の言葉は今とはずいぶん違うのですね。他にも「わたしは給食のカレーライスが大好きです」は「われは給食の咖喱飯がいと恋し」と昔の言葉で言い換えることができます。

さて、話を元にもどします。ひらがなの「ぬ」は、昔と今で使い方が違うということがわかってきました。実際国語辞典で「ぬ」の項目はものすごく言葉が少ないですし、ひらがな46文字のうち最も使われない文字としても「ぬ」は有名です。（ちなみに1位は何でしょう？）しかし、「ぬ」が、無くなるととたんに困ります。

たとえば、「ぬいぐるみ」を「ぬ」を使わないで、他の言葉で言い換えられますか？布でできた人形はだめですよ。布でぬが使われています。難しいですね。

余り使わないからと言って、無くなっていい文字なんて一つもありません。私たちの身の回りの物やお友だちも同じです。あまり使わないからといって、雑に扱ったりしていませんか。あまり仲良くないからといって、お友だちをいじめたり、嫌ったりしていませんか。この世の中からなくなって良いもの、なくなっていい人間なんて一人もいないのですよ。このことはよく覚えていてくださいね。

今日のお話はここまでです。最後まで先生の話の静かに聞いてくれて本当にありがとうございます。

みなさんの身の回りで、無くなったらこまるものってなんですか？校長室前のボードにつぶやいてみてください。

これで校長先生の話が終わります。